

イベントのお知らせ・取材案内



Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学

報道機関 各位

2016年4月22日

APU リリース 2016-07

島ぜんぶでおーきな祭 第8回沖縄国際映画祭 多国籍な学生による制作映画 いよいよ上映！ 学生制作メンバー映画祭のレッドカーペットに登場

島ぜんぶでおーきな祭 第8回沖縄国際映画祭にて、本学学生が制作した映画が、地域発信型映画の一つとして上映されます。映画の舞台は大分県別府市、制作メンバーは日本も合わせて世界5カ国の学生で構成されています。別府より、本映画祭に出席するのは、11名（日本7名、韓国1名、タイ1名、ベトナム1名、フランス1名）です。オープニングセレモニー（波の上うみそら公園、那覇市）、のクロージングセレモニー（国際通り、那覇市）でのレッドカーペットに登場します。

《制作メンバースケジュール》

4月21日（木）16:30 オープニングセレモニー 場所：波の上うみそら公園 [那覇市] ← 済
4月22日（金）16:50 「雲の街」上映 場所：桜坂劇場ホールC [那覇市]
4月24日（日）12:00 クロージングセレモニー 場所：国際通り[那覇市]

《映画上映に向けて》

「雲の街」監督 南侑李（ミナミュウリ アジア太平洋学部3回生 韓国）コメント
今回、制作メンバーや環境に恵まれ、映画製作を無事終えることが出来ました。このような機会を頂けて、大変光栄です。私たちが作った映画の舞台、雲の街とは、我々が生きる社会の縮図であり、環境の象徴でもあります。この映画を通して現代社会で起きている環境問題や、人間同士の対立についてのメッセージに関心を持って頂けるきっかけになれば、と考えています。また、震災で今も不安の中、この映画を見た全ての人が、九州にある美しく素敵な場所、大分、別府に思いを馳せて貰えたら嬉しいです。

《映画祭初日の様子》

昨日4月21日オープニングセレモニーでは、出席した学生ら11名は、映画にも出演した吉本興業所属のパンクブーブー佐藤哲夫氏とともに、レッドカーペットを“九州がんばろう”と書いたお揃いのTシャツを着て歩きました。映画関係者から「がんばって!」「大丈夫?」などの激励の声を掛けられ、別府の様子を伝える場面も見られました。

彼らの作品の予告編がその他のプロが作る映画と同じ目線で紹介され、早く見てみたいという声も聞かれました。学生らも大変喜んでおり、上映会への期待が高まりました。上映会は、4月22日（金）16:50 那覇市内の桜坂劇場ホールC（収容人数80名）で行われます。

国際学生については、沖縄の気候が母国と似ていて、なぜか懐かしく感じると話しています。

●本リリース(全1枚)は、大分県政記者クラブ・別府市政記者クラブ・福岡経済記者クラブ加盟各社に送信しています。
〈オープニングセレモニーで、予告編が紹介されている様子〉



〈オープニングセレモニーに出席した学生と出演者〉



《映画あらすじ》

"そこは、人間を支える世界「雲の街」"

雲製造業者である彼らにとって人間とは「神」であり、「憧れ」の存在。

主人公カイもまた、人間を心から尊敬し、毎日人間たちが楽しく過ごせるようにと「雲」を作り続けている。

そんなある日、カイはこの世界と人間界を繋げる、ある「物」を見つける...

-彼が目の当たりにした真実とは-

《キャスト》

DESCHAMPS Yanis (デション・ヤニス、久高三奈、廣瀬あかり、佐藤哲夫(吉本興業所属 パンクブービー)、
首藤将太(吉本興業所属 野良レンジャー)、竹尾悠兵(吉本興業所属 野良レンジャー)

《監督・作品データ》

監督：南侑李、Khamkerd Watcharainthorn 製作国：日本

製作年：2016年

コピーライト：©2016「雲の街」製作委員会